

ARPA・K NEWS LETTER

地域計画・建築研究所



オーチャード通りの風景（シンガポール）

車サービスは左側のみの方通行。右側はゆったりした歩道と植栽をとっている。

アルパック ニュースレター もくじ

- | | |
|--|----|
| • 日本人ツアーはエーゲ海で観光商品になっていない…………… | 2 |
| • エネルギと喧騒—韓国旅行レポート—…………… | 4 |
| • きんきょう ○近況四題…………… | 6 |
| • アメリカ東海岸の諸都市における水辺と 交通の再活性化について…………… | 9 |
| • きんきょう ○パソコン通信を始めてます…………… | 12 |
| ○ここまで育った“さいぼし”…………… | 12 |
| ○「安・近・短」遊…………… | 13 |
| • 書評「遊びビジネス宣言」…………… | 14 |
| • まちかど ○結婚写真は植物園で…………… | 16 |

No. 26

日本人ツアーはエーゲ海で観光商品になっていない

小 阪 昌 裕

○ エーゲ海上での共通語は何語？

西洋文明のルーツ、また海の国ギリシアのアテネ・ピレウス港を出発港する4泊5日のエーゲ海クルーズでの体験を御紹介します。

乗船手続きを済ませて、キャビンに落ち着いたが、先程から何やらずっと船内アナウンスが続いているのです。耳をすまして聞いても、最初は何語なのかさっぱり見当がつかず、途中からわかりだしたのは、どうも英語だけではなく何種類かの国語で同じことを2度しゃべっているということです。

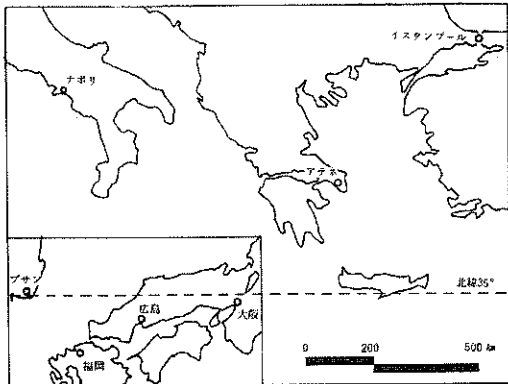
物の本によれば、ギリシアで一般に通じるのはまずはギリシア語、次に英語、ドイツ語の順であるが、どうもその順序でもなさそうなのです。退屈の代名詞のようにいわれていたクルーズの1日目は、この“外国語ゲーム”で退屈することなく過ごせました。正解はまずギリシア語（これは誰も意見のないところ）、次はフランス語、3番目がドイツ語、4番目にはなんとスペイン語が割り込んでき、5番目にやっと英語、6番目にはどうも途中からイタリア語が付け加えられたのです。というわけで、アジア大陸とヨーロッパ大陸の

“地中海”であるエーゲ海での共通語は、ギリシア語だけでも英語だけでもなく、強いて言うならば唯一の共通語は“スマイル”（笑み）といえるかもしれません。（我が母国語は、今回のクルーズ中には、乗っている人数が少ないせいか、ただの一度も“言語”として認知されませんでした、念のため……）。

なぜ、アナウンスのプライオリティが一般の共通語の流行度合ではないのか、またなぜ途中から他の外国語が付け加えられたりするのか。その理由は実は単純なものです。つまりアナウンスの目的は人に情報等を伝えることにあり、そのプライオリティはその受け取る側の人の量によって決まってくるということです。

ちなみに、今回の乗客数を国籍別に内訳を示すと次のようになります。

- フランス語 フランス（約100人）
- スペイン語系 スペイン（約100人）、メキシコ（13人）、アルゼンチン（5人）、コスタリカ（5人）、ウルグアイ・エルサルバドル・ブラジル（17人）、ポルトガル（1人）
- ギリシア語 ギリシア（約80人）



エーゲ海と瀬戸内海



エーゲ海のクルージング風景

| | |
|-------|--|
| 英語系 | アメリカ（16人）、オーストラリア（16人）、イギリス（3人）、カナダ |
| イタリア語 | イタリア（14人） |
| その他 | スイス、エジプト、ベルギー、オランダ、フィンランド、ルーマニア、トルコ、レバノン、そして日本 |



ロドス島のみやげ物店

○ クルーズマネージャーはマルチタレント

この6ヶ国語のアナウンス、今聞こえるのは何語かぐらいはわかるようになったものの、その内容を理解するまではいきませんでした。というのは、第1日目あのあこがれの風車の島ミコノス島に上陸する時に、やはり非常に不安になって、何時に着岸して何時に船にもどってくればよいのかよくわからず、アナウンサー（クルーズマネージャー）のところまで聞きに行ったときの事です。まず、彼が何を言っているのか分らなかったが、言葉はわからなくとも、機嫌がどうも良さそうではないのです。さらによく聞いてみると（職業柄あまり気にせずに）、彼はもうこれ以上の説明にくだびれたということなのです。というのは、彼いわく“なぜ6ヶ国語で説明しているのに聞いていなかったのか……”というわけなのです。我が母国語が認知されていないので、例の6ヶ国語は耳では聞こえてはいたのだが、脳には聞こえていなかったという次第です。

さらにおどろいたのは、この6ヶ国語、どう聞いても同一人物の声、しかもピレウス港出港から帰港まで変わらなかったということなのです。つまり、このクルーズ中1人のマネージャーがアナウンスをしていたのです。このマネージャー、実はトルコのイスタンブール生まれの人で、若い時から船乗りであち

こちらの国へ行ってはその国の言葉を身につけていき、今は何と8ヶ国語を話せるというではありませんか（あとの2ヶ国語は、おそらく母国語のトルコ語と他の一つはフランス語・スペイン語が話せると簡単なポルトガル語かと思われます）。

そして一層おどろいたのは、各島々やトルコに上陸するとバスでエクスカージョンがあるが、そのガイド役（スペイン語役）から夜船長の開催するディナーパーティーやショーの司会者役も務めるマルチタレントぶりにはまいました（パーティーやショーでの説明は、もちろんギリシャ語からはじまり何ヶ国語かで説明するが、さすがに後の方の国語ほど短かくなっていくのを聞いて人間らしさを感じました）。

○ 今は日本人ツアーでは商品になりにくい

何泊かの船中泊のエーゲ海クルーズは、今のところ日本人ツアーでは商品になりにくいと思います。その主な理由として、第1に遠距離、第2に船旅の経験不足、第3に主な起終点が同じアテネであること等が考えられます。

まず、遠距離である点については、あの狭い機内に長時間いることによる苦痛と、その時間に比例するかのよう高い航空運賃があげられます。極東の日本からはやはり遠く、昔の“お伊勢詣り”ではないが一生に何度と

いった大旅行では、いかに多くの国、都市を巡るかといった量的周遊型にならざるをえず、エーゲ海だけで何日もとることは難しいと考えられます。

次に船旅の経験不足については、船酔い、パーティ等での外国語によるコミュニケーション等が考えられます。

さらに起終点が同一都市であることについては、隣接諸国とのネットワークが不充分である点で、バルト海クルーズ（ヘルシンキ、ストックホルム、コペンハーゲン、オスロ）と比較するとイメージできると思います。つまり一泊二日程度で、白夜を見ながら夜に移動できることが魅力となっているようです。

そうはいても、遠距離問題は、空路の立寄都市での宿泊、旅行回数の増加により、ある程度解決できる可能性が考えられます。また、船旅の経験不足もエーゲ海は波は静かであり心配はならず、言語問題でも日本語ガイド等が添乗することなどで解消できるものです。最後に周辺とのネットワークについても、新たな観光地の掘りおこしにより今後の可能性が期待できます。

一日中雲一つない青い空、塩分が多いがベト付かない青い海、目映い白い建物、古代遺跡等、エーゲ海クルーズは素朴さと歴史性が魅力だと思います。

（こさかまさひろ 大阪事務所）

エネルギーと喧騒

— 韓国旅行レポート —

山 辺 真 一

「道路は何車線？」

訪韓の初日、金海国際空港から慶州に向かう途中、釜山の北側地区の道路を走っている途中、別の道路との合流する地点でのことです。

我々の乗っているバスの後ろから、わずかに車のおれる程度のスキ間を抜けて、タクシー、トラック、乗用車が目ざとく車の間にわりこんできます。並の寄せ方ではなく、接触する寸前まで寄ってくるのには驚きました。（日本では、暴走族が、嫌がらせのために行う幅寄せに似ている）まるで何かにとりつかれたように、全ての車は前へ前へと進んできます。

同じような場面が、釜山市内のメイン道路でも見受けられ、少しでもノロノロ運転をしていると途端に後続車からクラクション、さ

らに追越す時には、運転席からの罵声（言葉の意味はわかりませんでした）、そしてこれら全ての音が、街中に響いており、これだけで韓国のエネルギーを十分に感じさせるものでした。

しかし、最初に訪れた慶州は、静かな田園地帯とでもいうような風景の街でした。

「釜山の夜は更けず」

ソウルに次ぐ2番目の大都市釜山の夜、街の繁華街には、若者たちがあふれていました。道のあちこちにある博多の屋台にも似た食べ物屋には、時間は8時を過ぎているにもかかわらず、若い女性が立ち喰いを楽しそうにしていました。ちなみに、博多でいえば、屋台で、ラーメンやおでんを食べている女性の姿に共通したものがありません。しか

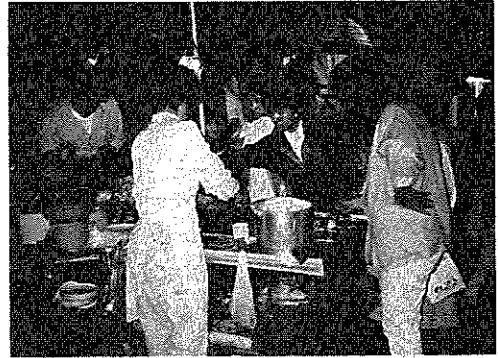
し、韓国の場合、これで今夜は終わりと言うよりも、これから夜が始まるという雰囲気伝わってくるようでした。この日は、ちょうど金曜日の夜で、日本でもこの夜は、「ハナ金」といわれ、若いサラリーマン・OLが、夜遊びをするのと同じかとも思いましたが、まだ韓国では、週休2日というのはそれほど一般的ではないし、しかも人々の遊んでいる姿は、昼間の仕事の疲れを感じさせないものでした。今のこの国のエネルギーをかいまみたような気がしました。

「ごったがえすチャガルチ市場」

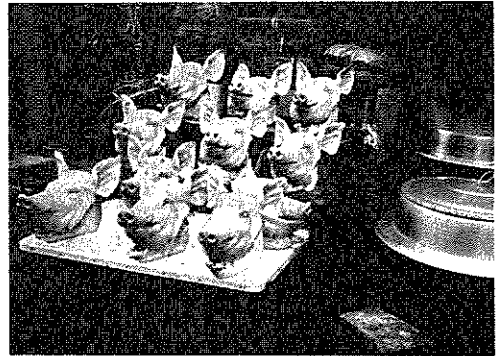
最後の日の日曜日の午前中に見た釜山のチャガルチ市場は、それまで感じていた人々のエネルギーの源を補充するにふさわしい盛況ぶりでした。

港のすぐそばにあるこの市場は、釜山市民200万人の台所と言われ、港沿いにある狭い道路には、日本の青空市場にいるようなおばさん達が、朝水揚げしたばかりの魚を中心に所狭しと並べ、その路地を、人間はもちろんのこと、トラック、自転車などが入り込み、ボヤボヤしていたら怒られそうな雰囲気でも賑わっていました。この時、総勢26名の団体の我々は、市場に入るときそ一団となっはいたものの、市場の中に入った途端、立ち止まるものもあれば、どんどん先に行くものもあり、結局団体は市場の中でバラバラになってしまい、案内してくれていたガイドさん（女性）は、終始顔を引きつらせ、みんなが出てきた時にはあきれかえたような様子でした。ガイドさんは、この市場を我々が見に行くこと自体が不思議だったようです。

とにかく、韓国の街の印象に残ったのは、車のクラクションの騒々しさと、若者・おばさんたちのエネルギーッシュな顔、そして本



夜の11時頃、雨が降っても若い娘さんまで盛り場で楽しんでいる



チャガルチ市場の風景
「食欲がわいてきますか」



ごったがえすチャガルチ市場

場キムチの味でした。

活力のある街というのは、まさに今の韓国の釜山のような街の雰囲気のあるところなんだと感じた次第です。

（やまべしんいち 九州地域計画研究所）

近況四題

三輪泰司

前号の原稿締切以後、社長が見て、聞いてきましたアルパックの仕事の仕振りの中から四つご報告させていただきます。

夢千代像の台座は広島石

8月31日から9月1日にかけて、神戸大学大学院のゼミの学生と但馬の温泉地を見してきました。今年の春から、自然科学研究科の非常勤講師を拝命し、環境科学の院生を受け持って、都市設計論のテーマに「リゾート開発」を選んだからです。

あらかじめ役場へお願いしていましたのは城崎町と温泉町でした。いずれも永年、総合計画から施設の設計監理まで、アルパックがお手伝いさせて頂いてきたところ です。

美方郡温泉町は、前々号で京都事務所の倉本副所長が、露天風呂の紹介をしておりましたし、前号では大阪の福岡嬢が所内旅行でのそのお風呂の体験を報告しておりました。

この町は、NHKの「夢千代日記」の舞台として有名になったのですが、人口8千5百人、鳥取県に接した山あいの小さな町です。

村尾町長さん自ら説明にお時間をさいて頂き、アルパックの設計になる「リフレッシュ・パーク・ゆむら」や健康公園を見ました。

845年、慈覚大師によって開かれたと伝えられる「荒湯」は湯村温泉の中心部にあります。そのゆけむりをのぞむ春來川のほとりに夢千代さんのブロンズ像があります。勿論モデルは吉永小百合さんです。実は、この像の台座は、広島市から寄贈された旧市庁舎の石です。

ご承知のとおり、夢千代さんは、広島原

爆被爆者2世という設定でした。

像の台座が広島市の役所の、原爆の洗礼を受けた石である、そのことによって、この像とこの町のイメージに奥行きと繋がりが与えられました。心に傷をもった人を温かくみまもり静かに希望を与えた夢千代さんを想いおこすのです。

町の人々の深い思いにうたれました。そして、設計監理の間に広島まで職員の方とご一緒して、交渉し汗をながして石を運んできた倉本君の奉仕の精神を讃えたいと思います。橘女子大学の案内をして頂いて

9月26日、山科にある橘女子大学の管理・特別教室棟が竣工し、披露されました。

京都市内外から大勢のお客さんが見えました。式のと、会場の特別教室は、サッと模様替えされて、AVシステムのデモンストレーションが始まりました。映像と音響の素晴らしさにびっくりしました。それから、三つのグループに分かれて各階を見学しました。ご案内役は総務・教務などの女性部長さん。教室では担当の先生や学生が機器を駆使してデモをして頂きましたが、グランド・フロアの事務部門は部長さん方のホーム・グランド。そこで感心しました。

学生部も会計部もオープン・カウンター方式が採用されたのですが、バックの軽い間仕切りで囲ったスペースの具合、学生の部分と一般の部分を分けた具合、その具合のよさを部長さん方の、とても気に入っている、という気持あふれるご説明に、われながら良くできた設計だ、と感心してしまいました。

アルパックの設計・計画の手の内ごとすっかりご紹介して頂いたようでした。

アルパックの建築設計の秘密とは何でしょうか。それは、間取りの計画からデザインま

で、実に密度が濃いこと、それはこの場合ですと、先生方や職員の皆さんとの計画論からデザイン論に至るヤリトリが組織的で、時には厳しい白熱の議論が聞かわされ、その結果が形になり、その形の中に知的労働の厳しさと楽しさを感じるのです。

建築の設計とは、デザイン（技能）とテクノロジー（技術）を基礎にした建築家の頑張り、そのオーナーや使う人が真剣にぶつかって実現することであると思います。それは建築に魂をふきこむ大事なプロセスであります。このことは、市町村の総合計画や地域開発プロジェクトにも通ずる原則であります。学園創立85周年、大学開校20周年の記念すべき年の事業でした。

案内をして頂いてありがとうございます。

そして、このような実践を体験して、担当した高坂君をひとまわり大きくさせて頂いてありがとうございました。

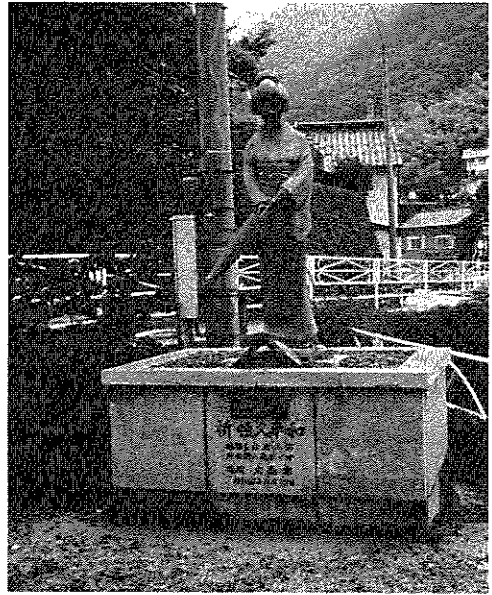
大倉記念館の受賞をお祝いして

今年、歴史都市会議を記念して、京都市の「美観風致賞」に特別賞が設けられました。

アルパックは、伏見の月桂冠株式会社さんによる“大倉記念館”とその周辺での保全・修景を推薦させて頂きました。審査会で最高の評価を受けて「特別賞」に選ばれました。11月13日に京都国際会館で受賞式が行われます。

この計画は大阪市立大学の谷先生が指導されたもので、アルパックは設計も、勿論施工にも関係していません。従って賞を頂くわけではありませんが、こんな嬉しいことはありません。月桂冠株式会社創業350年のめでたい年にあたり、特別意義あることであります。

伏見のまちづくりには、ファッション産業団地以来、おおげさに言えば、アルパック創



夢千代像

立以来、情熱を注いできました。

伏見市が京都市に合併して51年。

いま、伏見区の人口は27万、京都市で最大の行政区。平安建都1200年へ向けて、京都千年の計を図るとき、地域計画的な戦略からいって、伏見がどうなるか、伏見の市民が京都の都市建設・施設建設にどのように参加するかが京都の運命を左右するといつてよいと思います。

平安建都1200年記念の博覧会場の有力候補地としても考えられている“洛南新都心サイエンス・タウン”。京都と全国さらに世界を繋ぐ交通動脈も伏見に集中してきます。

名神高速道路京都南ICの南に位置するファッション産業団地に京都府の総合見本市会館をつくるのにも、およぼしながら心血を注ぎました。いま伏見の市街地では、酒蔵がマンション建設に狙われています。それらが準工業地域に立地していることも、その要因になっています。

区民の願いを受けて、京都市では南部文化

1987年11月1日

きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況 きんきょう 近況

会館の建設を計画しています。これも酒蔵の跡に建てられる予定です。

61年度には、伏見港—レッキとした京都府の管理する港湾です—とそれに繋がる濠川など、旧市街地部の構想についての調査もさせて頂きました。その濠川添いに大倉記念館一月桂冠の旧酒蔵があります。

濠川の整備も進んでいます。受賞を記念して酒米などを運んだ舟を再現しようと、ご相談しました。

伏見の酒づくりを守るとともに、時代の要請に応える新しいまちづくりが求められています。産業ミュージアムとして、また酒蔵コンサートなど多彩な文化発信の基地として大倉記念館はそのひとつのこたえを示しています。

今、平安建都1200年へ向けて、京都を美しいまちにすることが第一の課題です。そこで建築物をただ建築基準法にさえ合っていればよしとする設計でなく、図書館や文化会館を行政的につくればよいとするのではなく、こうした民間の努力も併せて、地域ぐるみの、きめこまやかな施設づくりの方法を追及することであり、批判と研究がその原点でしょう。

今回のご推薦のために、資料整理や写真づくりには、伏見に住み、伏見のまちづくりに学生時代から取り組んできた石本君が情熱を傾けました。月桂冠株式会社の皆さんの、伏見を愛する静かなしかも強いグッド・ウイルにお応えした次第です。

情報の情はこころのこと

以上三つの経験に共通していることは、町も大学も記念館もそれほど大規模でもなく、また一つひとつ批判・研究を積んで次のレベルへ次のステップへと進んできていることです。

次は所内の見聞報告です。

アルパックの情報ネットワークも大規模な

ものではなく、内容の一つひとつを注意深く吟味して続け、発展させてゆこうとしているところに特徴があります。

9月の役員会議で、名古屋事務所のコンピューター設置を機会に、全事務所でのパソコン通信網を構築しようという大阪事務所からの提案を採択しました。10月役員会議では、プロポーザルなど、各事務所で開発し、蓄積してきた情報の集積・分類およびレファレンスの体制づくりを決定しました。パソコン通信網を活用するソフトの一つです。

城崎町・温泉町で感動しましたのは、町長さん、課長さんが淡々と、しかも自信をもってまちづくりの“哲学”を語って頂いたことです。観光地ではどうしても条件の悪くなる住民の生活とその環境に思いを致すこと、一時的にはしんどいことになるが、断固として暴力団を排除し、主体性をもって、健康で美しい町にすることでした。

橘女子大と月桂冠株式会社の皆さんには、建物とその設備を自分自身のものとして、慈しんで使うことに建築設計の神随があるのだ、ということを教わりました。

アルパックも遅ればせながら、美しい仕事の環境とハイテクノロジーの導入に力を入れています。ここ一年の間に、機械類の増えたことに驚いています。

これらを活かすのは、「何のために」という人間の主体的な意志であると思います。

そこで、皆さん方から学んだことをしっかりかみしめ、情報システム化において、情報の“情”とは“こころ”のこと、ということを自らにいい聞かせて健康で美しくそして希望の湧く仕事のために、役立ててゆきたいと思います。

(みわひろし 代表取締役社長)

アメリカ東海岸の諸都市における 水辺と交通と再活性化について

森 脇 宏

(はじめに)

今夏、アメリカ東海岸の7つの都市を訪れ、各都市におけるウォーターフロント開発や都市再開発等を見る機会を得た。ここでは、これらの都市のうち、ウォーターフロントを持つ5都市（シカゴ・ボストン・ニューヨーク・ボルティモア・マイアミ）の共通した印象として、次の3点について、簡単に触れてみることにしたい。

1. ウォーターフロント開発への布石

アメリカ東海岸における都市のウォーターフロント開発として有名なものは、ボストンのユニオンワープ等とボルティモアのインナーハーバーの再開発である。これらの再開発は、ダウンタウンに近接しているため、ダウンタウンの活性化を大きなテーマとしながら、同時にダウンタウンのポテンシャルを活用できたプロジェクトでもあった。しかし、ダウンタウンのポテンシャル活用と、一言では片づけられない重要な工夫がなされている。

例えば、ボストンにおけるユニオンワープ等の再開発が成功した大きな鍵は、ファニエルホール・マーケットプレイスである。すなわち、それ以前でも、ウォーターフロントの再開発が、民間ベースでスポット的に試みられたこともあった。しかし、周辺が依然として荒廃したままで、しかも幹線道路でダウンタウンから完全に切り離されているため、一時的には人気を呼んだが、結局、見放される運命をたどった。

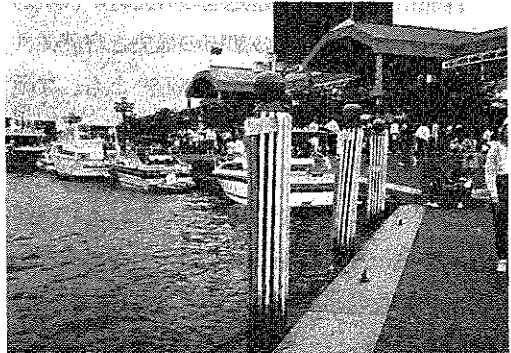
そこで、まずダウンタウンとウォーターフロントを結ぶ位置にあった元貿易センターのビルをマーケットに改修して、これによってダウンタウンからウォーターフロントへの太い人の動線を形成させた。この布石と呼べるプロジェクトが、ファニエルホール・マーケットプレイスであり、このプロジェクトがあって、はじめてウォーターフロントの活性化が実現したと理解すべきであろう。

ボルティモアでは、インナーハーバーに先立ち、水際線から直線最短で400mほど離

ボストンのファニエルホール・マーケットプレイス



ボルチモアのインナーハーバー



船舶優先のマイアミ可動橋



水路のようなマイアミのビスケーン湾



れた位置で、業務型の都心再開発（チャールズセンター）が着手された。このプロジェクトは、ボストンのようにダウンタウンとウォーターフロントをつなぐプロジェクトではなく、都心機能の集積拠点が不鮮明であったボルティモアにおいて、ダウンタウンの拠点そのものを形成させるプロジェクトであったように思われる。

これらの事例による教訓は、賑わいのあるウォーターフロント開発を進めるためには、都市的拠点とつながり太い人の動線の形成が極めて重要であり、そのための条件が不備であれば、何らかの布石を打つ必要があるということである。これは、ニューヨークのサウスシーポートでも強く感じた点である。

2. 歴史と地形に制約される交通体系

各都市における交通処理の考え方や、交通問題等は、それぞれの都市の歴史と自然条件（特に地形）に強く制約されることも、共通して印象づけられたことである。

すなわち、シカゴやボルティモアにおいては、アメリカの典型的（と思っている）交通体系である自動車中心の交通体系が形成され、ラッシュ時の混雑も幾らかあったが、大きな問題としては感じなかった。

しかしボストンでは、歴史的な町並がモータリゼーションに対応できず、しかもダウンタウンが川に囲まれた島の中であるため、関連交通が限られた出入口である橋梁・トンネルで渋滞し、交通問題が大きな問題となっていた。ニューヨークも、ボストンと同様に、マンハッタンが島であるため、モータリゼーションに対応できず、マンハッタン内の道路は、ほとんど一方通行の規制がかけられているが、交通問題の発生が早く、地下鉄等の代替手段が既に発達しているため、大きな混乱は生じていない。

マイアミの交通体系は、他の都市と比べると最もユニークであり、水路のように大きく入り込んだビスケーン湾と、海洋性リゾート地として発展してきた経緯が、大きく起因している。つまり、マイアミにおける交通の主役は水上交通であり、水路のような湾を横切る可動橋では、クルーザーが優先で、クルーザーが通過するまで自動車は待機するシステムとなっている。

我が国の多くの都市においても、都市発展に伴う交通問題がある。スクラップ・アンド・ビルドが得意なアメリカでさえも、都市形成の歴史と地形等の自然条件を無視できないのならば、当然、我が国の都市交通は、歴史

スクラップアンドビルドが進むシカゴ



と地形等を十分踏まえて検討されるべきであると、強く再認識した次第である。

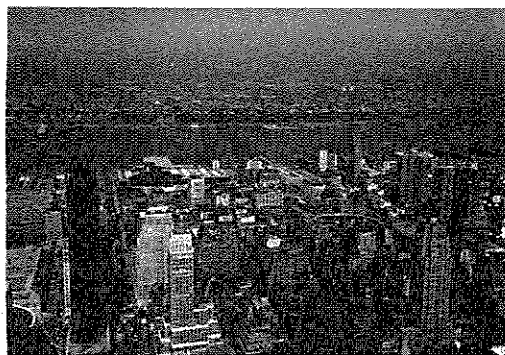
3. 「再活性化」都市の地価高騰

今回訪れた都市は、1960年代頃の停滞を打ち破り、再活性化を果たしつつある都市が多く、再活性化を促進した主要な戦略プロジェクトも、ウォーターフロント開発・コンベンションセンター・空港と共通する点が多かった。同時に、再活性化という共通する“光”の部分とともに、共通する“影”の部分として、「地価の高騰」が発生してきており、新たな都市問題となってきた。

すなわち、都心及びその周辺に、市外へ流出した人口と投資を呼び戻すことにより、新たな居住活動と業務活動が都市で展開され、都市の再活性化が進展してきた。しかし、再活性化に伴う諸建設活動によって生じた地価の高騰が、市内への人口と投資の流入に対して、新たな障害となるという皮肉な結果をもたらしつつある。

この問題は、単なる一都市だけの都市問題ではなく、我が国や他国でも生じている現象であり、しかも世界的な“金余り現象”が背景にある。この問題に対して、アメリカの政府と自治体が、どのような対策を講じようと

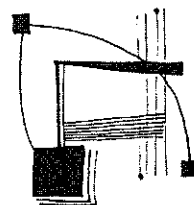
ニューヨークマンハッタン



しているのか。現在のところ、その処方箋は明らかにされていない。

アメリカでは、我が国と異なって、いざとなれば地価は下落するため、いずれ地価高騰は鎮静化し、適正価格へ移行すると考えているのか、あるいは超高層ビルによって、高い地価を吸収しようと考えているのかもしれない。ニューヨークやシカゴのように超高層ビル群が林立し、スクラップ・アンド・ビルドが激しく行われている都市では、上記の考え方もありうると思われるが、歴史的な町並みを持ち、高度利用を制限しているボストンでは、都市づくりの方向と地価高騰は全く相反している。そのボストンが、どのような処方箋を用意するのか。今後を見守りたい。

(もりわきひろし 大阪事務所)



パソコン通信を始めてます

松尾光洋

ここで言うパソコン通信とは、電話回線を使ってのパソコンによるデータ通信の総称とします。

パソコン通信のメリットの一つは、パソコンやワープロのデータをそのまま送れるところにあります。いままではフロッピー・ディスクを郵送していたのですが、それを電話回線を使って「電送」するわけです。現在、大阪事務所と名古屋事務所ではパソコンのデータをやり取りしています。

しかし、それだけなら、電話やファックスより少し便利なだけです。パソコン通信の本命は他にあります。外部のとの接続により、いろいろな通信サービスが利用できるのです。オンライン・データベースはそのひとつです。新聞、書籍、論文、各種統計資料などの情報がオンラインで入手できます。

現在、パソコン通信を使っての様々な情報収集・情報発信を検討中です。しかし、問題点はパソコンがまだ事務機器として一般化していない点です。コピーやファックスのように誰でもが手軽に利用できる段階に達するのはまだまだのようです。

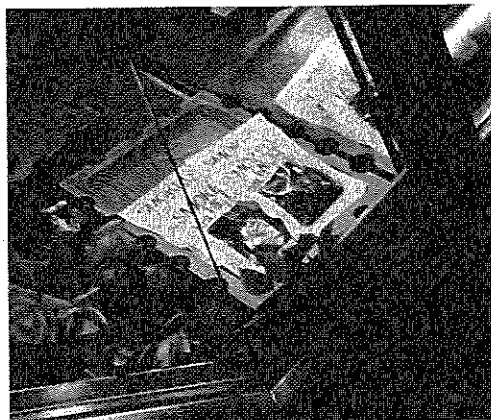
(まつおみつひろ 大阪事務所)

ここまで育った“さいぼし”

山口繁雄

“さいぼし”とは？

“さいぼし”という食べものを皆さん御存知でしょうか。私は、数年前まで、そんな名前の食べものがあることなど全く知りません



つかしんでみかけた“さいぼし”

でした。ところが、たまたま大阪府羽曳野市で仕事をさせていただいた時、「このまちには何か特産物はありませんか？」といったような話をしていると、“さいぼし”という食べ物があることを教えてもらったのです。それは、馬肉のくん製とやらで、駅前の市場の肉屋さんに時々置いているということでした。早速その肉屋に行って、ショーウィンドウの片隅にラップに包まれたその肉片をやっとのことで見つけ、買い求めました。食してみたところ、これがなかなかの味で、特に酒好きの人にはこたえられないのではないかという感じがしました。これは売れるかもしれないと思ったものです。

特産物“さいぼし”の誕生

しかし、いかに特産物とはいっても、ぶつ切りをラップに包んで売っているようでは、商品価値がありません。何とかスライスにでもしてパック詰めか何かで売り出せないものかと議論していたところ、1～2年後に、そのパック詰めが売り出されていることを知らされました。そうになると、欲が出てくるもの

で、地元だけでなく、もっと広い市場へ出せないか、せめて地元を走っている近鉄の売店にでも置いてもらえないかと夢がふくらみます。

ところが、先日、たまたま「つかしん」に行った時、その生鮮市場の肉屋で、そのパック詰めが売られているのを発見したのです。それは、私にとっては、ある種の感激を覚える出来事でした。あの“さいぼし”が、よくぞここまで、とでもいった感じです。真空パックにして、包装デザインをもう少し良くすれば、やがて新幹線の中でも御目にかかることになるかもしれません。

(やまぐちしげお 大阪事務所)

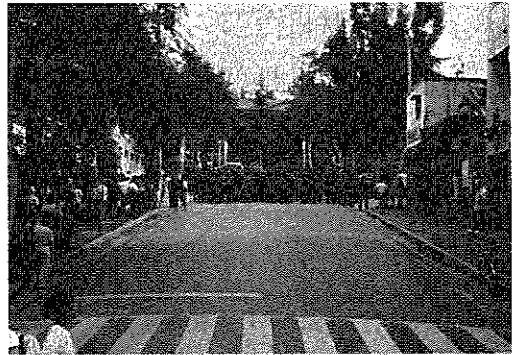
「安・近・短」遊

糸 乗 貞 喜

むせかえるようなニンニクの臭に、ゲストルームに入るのを、皆が少しとまどった。

空港についたときから韓国のキムチの臭を感じますよ といわれていたし、そのことは空港に着いたときからわかっていた。しかし、ひょんなことから大邱大学（大規模な総合大学であった）を訪問することになり、その付属身障児福祉学校のゲストルームに入るときは驚いた。床・壁・空気にまでキムチの臭がしみついてた。

ひょっとして日本のわれわれの生活にも、ミソシルの臭とかツケモノの臭、生魚の臭がしみついてるかもしれない。結局旅行の楽しみというものは、風景を見るだけでなく、味を楽しみ、臭を感じ、人の心にふれることかもしれない。その点からいうと、今回の釜山、大邱、慶州の旅は、十分な成果があった



5月21日バスの中から撮った大学の正門は警官隊（軍隊？）でいっぱいになった。このあと韓国中の大学・街頭は大騒動となった。

といえよう（肉とキムチがうまかった）。

「高・遠・狭」が住宅の形容詞であるが、住宅はまずしくとも、ほんのひとときでも、少しゆったりした心映になろうではないかということで、上記の旅を企画した。

気心の合った連中で、気軽に出かけて……という感じで、所員とOB、それに私たちの親しい人たちといったメンバー26人が4日間の旅をした。釜山の盛り場の喧騒が今でも眼にうかぶ。キーセンパーティーより、盛り場をうろつくのが趣味といった連中ばかりで気楽な旅だった。あまり気楽すぎて、旅の記録を出そうといいながら、まだ原稿が集まっていない。

この旅の中で、これをアルパック行事のひとつとし、その第一回ということにして、「安・近・短」遊旅行を毎年やりたいという声が出てきた。その声に答えて、来年も香港ぐらいいいきたいと思っている。もし参加してみたいと思われるようでしたら、編集部に連絡下されば、来春の企画時に案内を送らせていただきます（ちなみに今春の釜山方面は大阪からで4日間8万円ぐらいでした）。

(いとりのさだよし)

旧刊新刊書評

まず面白がらないとダメ 楽しいからやっているんだ

浜野安宏「遊びビジネス宣言」東急エージェンシー出版部

糸 乗 貞 喜

楽しいから、やっているんだ

ノーベル医学・生理学賞を利根川進さんが受けた。たくさん新聞記事があったが、最も印象に残ったのは次の一言だった。「サイエンスはまず面白がらないとダメ。組織のこととか、給料のことばかり気にしているようでは研究にならない。楽しいからやっているんだ、という気分にならないと」。

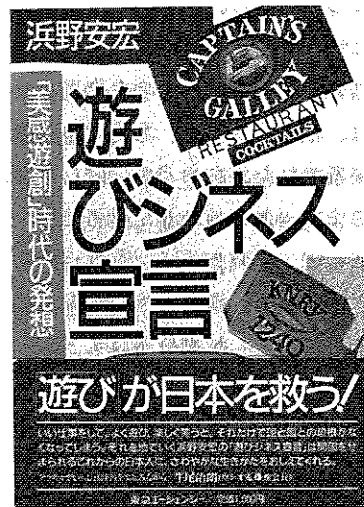
それと同時に夫人の話も出ていた。仕事への集中力はあるが、身の回りはダメで「今日もネクタイをどこかでなくしてしまっているし」。たしかにノーネクタイの写真が出ていた。

丁度この頃、この本を読んでいた。

浜野は、結局ビジネスも遊びがなければできないんだとっている、また遊びの中で築いた信頼関係は一味ちがうんだとっている。これを私流にいいおせば、仕事と作業のちがいのようなものだと思う。苦しいばかりの仕事がよい仕事になるとは思えないし、楽しい仲間というのは遊び仲間とか仕事仲間のことであるように思う。作業を通した友情なんて言葉はないが、一つの仕事をやりとげた友情とかいう言葉よく使われる。つまり楽しまなけりゃよい仕事は出来ないし、信頼関係も生れない。このことを浜野はいいたかったのだと思う。以下内容から引用していくつか紹介する。

エンターテインメントの時代

第5章に「新商品開発のポイント」として、これらのコンセプトはエンターテインメント



だといっている。「エンターテインメント産業とは、日本語で言うと、面白くさせるということ、つまり商品やサービスやいろんな演出やプロデュースを使っておもしろくさせること」といい、その中でも他人のやってくれたことでおもしろがるのではなく、自分で楽しむことが今後のコンセプトになるといっている。しかし今は主体的に楽しむより、受身でもおもしろい方が売れていると残念がっている。

その中で浜野がコンサルタントとして店づくりにかかわった東急ハンズのことが出てくる。もともとクリエイティブ・ライフ・ストアというコンセプトでスタートしたが、「生活エンターテインメント商品」の方がよく売れたという話が面白い。私も東急ハンズが好きで、用もないのに行くが、遊びの商品しか買ったことがない。といってもクリエイティブは常に遊びであるのだから区別するのが無理

かもしれない。

「あそび」と「のりしろ」

最後に「あそび」ということ概念についてふれる。近代日本は「遊びをほうり投げて」しまって、有か無か、右か左かとか、「公と私しかなく、あいまいな領域がない。まったくあそびがない」と著者を主張する。「近代日本における常識の喪失、作法の喪失、あるいはコモンセンスの喪失——どれも同じ概念なんだが、遊びという高度でトータルな概念の一部である」と考えている。昔の日本とは、縁台将棋は公と私の中間領域＝あそびの空間で行なわれていた。パリでも路上空間をカフェが利用している。このようにいって、著者はそれを「いいじゃないか空間」と名づけている、なかなか面白い。

私はそれを「のりしろ」といってきている。つまり「のりしろ空間」だ。何かをつないでいくには「のりしろ」がいる。多すぎたらムダになるが、少なすぎるのは不安定だ。結局あそびとかのりしろは、いろいろな要素をつないでいく重要なシステムだと思う。また、遊びも結局のところ同じ役割をもっている。

「常識」と「平凡」はすばらしい

ある人がいっていた。「余暇社会の到来だなんてことをいって、余暇を充実させることが人生の充実になるなんていう人がいるが、早い話、毎日遊んでいて（仕事と関係なく）何が面白いのですか、楽しむこともできんし充実もない。しかし仕事を楽しむなら毎日でもできるし、つらい仕事をして疲れても、その時の酒はうまい。一日中飲んでいて何がうまいものですか」。

正直いって私は、浜野安宏という人が、これほど常識的で平凡な人だとは知らなかった。平凡なことはすばらしい。

（いとりのさだよし）

お知らせ

この度、九州地域計画研究所（九州事務所）は、下記住所へ移転致しました。会議室も新たに設けましたので、お気軽にご利用いただければと思います。今後共よろしくお願ひ申し上げます。

〔新住所〕

〒810福岡市中央区天神1丁目15番1号

日之出ビル6階

TEL 092-731-7671

FAX 092-731-7673

<編集後記>

アルパックニュースレター26号をお届けします。これまでレターを続けてお出しすることを目標に、よちよち歩きの編集を進めてきました。それにもかかわらず、読者の方々からはあたたかいお便りもいただいております。

今回紙面をごらんになってお気づきの方もいらっしゃるかと思いますが、これまでのレターづくりをもとに、今後、よりまとまった内容でレターをお届けすることにいたしました。

た。

もちろん基本的な考え方である「人のぬくもり」の感じられる記事・読物でレターを構成することはわかりありません。「論より証拠」一足でかせいだ記事で、「情報誌」であるので文字通り「情=こころ」を報らせるものになりたいと思っています。そのため編集部取材も強化していきたいと考えております。

（ふ）

まちかど

結婚写真は植物園で

馬場正哲

写真はシンガポールの中心街にある植物園の風景です。この植物園はランの名所としてしられた、歴史のある公園だということですが、ご覧のように何組もの新婚さんがあつまっています。（そろそろと車でここまでやってきたようです）

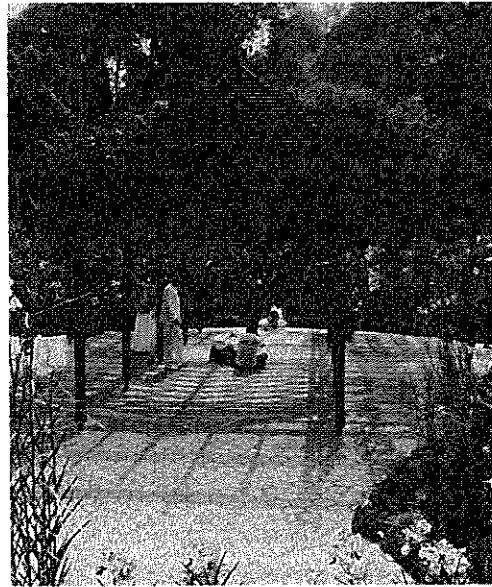
何をやっているかとのぞいてみると、ランの花をバックに記念撮影をしていました。中には下の写真のように新婚さんにポーズをとらせて何枚もとっている人もいます。どうやら専門のカメラマンもうろうろしているみたいで、かなりの人と車でごったがえしていました。

国民性の違いなのかもしれませんが、あまり日本ではお目にかかれないもののように思います。こんな楽しい「まちかど」をもっとみたいものです。ちなみに、オープン2年目を迎えた尼崎の「塚新」の教会でも、1月15日の成人式のあとなどに、若い人たちが教会を背景に写真をとる姿があるようです。絵になるまちかどが多く求められているのかもしれない。

(ばばまさあき 大阪事務所)



結婚式のあとは植物園へ



植物園の花嫁

ARPA・K (株)地域計画・建築研究所

ARCHITECTS, REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES, KYOTO

| | | | |
|--|------|---------------------------------------|-------------------------------|
| 本 都 事 務 所 | ☎600 | 京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82 (大和銀行京都ビル8階) | TEL (075) 2 2 1 - 5 1 3 2 (代) |
| 大 阪 事 務 所 | ☎540 | 大阪市東区石町1丁目1番地 (天満橋千代田ビル2号館) | TEL (06) 9 4 2 - 5 7 3 2 (代) |
| 名 古 屋 事 務 所 | ☎460 | 名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 (ツボウチビル6階) | TEL (052) 9 6 2 - 1 2 2 4 |
| 九 州 地 域 計 画 研 究 所 | ☎810 | 福岡市中央区天神1丁目15番1号 日之出ビル6階 | TEL (092) 7 3 1 - 7 6 7 1 |
| 北 海 道 地 域 計 画 建 築 研 究 所 | ☎047 | 小樽市色内1丁目2番8号 通信浜ビル3階 | TEL (0134) 2 9 - 1 1 0 9 |